

File. 56

株式会社サン薬局

(本社：横浜市港南区)

**薬剤師の武器を“得る機会”と“活かす舞台”を提供
プロの薬剤師育成によって地域医療に貢献**

真に地域と患者の役に立つ、プロフェッショナルな薬剤師の教育に力を注いでいる株式会社サン薬局。同社の目指す「時代のニーズを的確に担う医療人の育成」について、在宅薬物治療支援部部長の奈良健氏からお話を伺った。



▲代表取締役社長：奈良秀一氏

—はじめに、貴社の概要をご紹介ください。

創業40年、株式会社サン薬局は、横浜市南部から横須賀市に展開する12店舗において、地域の患者さんのお役に立つ薬局を目指し、その時代のニーズを的確に担うことができる医療人の育成を行っています。

—超高齢社会の今日、病院と並び地域で療養する医療の形が注目され始めています。貴社も在宅医療などに積極的に関わっておられますね。

はい。中でも薬物治療は今まで通り、患者さんにとって大きな位置付けを占めていると思います。私たち薬剤師は、外来・在宅の場で聴診器や血圧計等を用いることができますが、その目的は患者さんへの薬物治療が適切かを確認するためです。そのデータをしっかりとアセスメントして、患者さんへの説明や医師への報告書・居宅カンファレンスなどに反映させます。日本在宅薬学会の狭間研至理事長は「今、薬剤師にとって大切なことは、患者さんの薬物治療に対して【決断】できること」と言われています。「観察・会話・得られたデータを材料にし、自ら考え、責任をもって患者さんの薬物治療についてジャッジすることができる」—お薬のお届けや、お薬カレンダーへの配薬、残薬チェックなどの業務の先にある担いを常に意識し、「な

りたい薬剤師になる」という思いを持ち続けることが、選ばれる薬局・薬剤師になる必須条件だと考えます。

—「なりたい薬剤師になる」ことを実現するためには、何が必要でしょうか。

外来・在宅での舞台共に、薬剤師オリジナルの武器(職能)で武装することが重要だと思います。そんな武器を得るチャンスとして、年に4~5回「想いをかなえる。会社全体研修会」を実施しています。今年度は、薬物動態学の講演や著書を多く執筆されている、どんぐり工房の菅野彊先生をお招きし、薬局で実践的に行う薬物動態学について、シリーズ症例検討会形式で行っています。また、全体研修会の内容は録画の上、各自が自由に復習できるようにウェブサイトにアップしています。

時代のニーズに合わせた薬剤師オリジナルの武器を得るチャンスと、それを実際に使いこなす舞台を用意することは、組織が行うべき使命だと考えていますが、実際にそれらのチャンスをモノにするかどうかは、それぞれの薬剤師の情熱と行動力次第です。今後も日々、スタッフのモチベーションを上げる努力をしつつ、社長以下、一丸となって頑張っています。



▲今回お話を伺った在宅薬物治療支援部の奈良健部長。



▲薬物治療の効果・副作用をモニタリングするために、バイタルチェックは欠かせない。

▼「想いをかなえる。会社全体研修会」の様子。今年度は「薬物動態学」に取り組む。



▲在宅訪問の様子。患者との会話の中に、日常の薬物治療の問題点を常に探る。

基本 DATA

本社所在地：神奈川県横浜市港南区港南台4-7-29 / 創業：1974年 / 店舗数：12店舗 / 従業員数：70名(内、薬剤師48名) / URL = <http://www.sun-pharmacy.jp/>